

## 4. まとめ

今回の実証実験で、

- ・ 既存の旧機種を活用により低予算で ICT の整備・活用ができる
- ・ 児童・生徒は、OSS を問題なく活用できる
- ・ OSS・非 OSS 環境の併用により、教員の校務でも活用できる

ことがわかった。

現在、非 OSS の最新 OS を導入するには高スペックの PC が必要となるが、教育現場においては限られた予算での効果的な ICT 環境整備が求められている。小・中学校での学校現場、とくに授業を受ける児童・生徒たちにとって、利用するデスクトップ環境が「OSS」か「非 OSS」か、はあまり関係しない。

これらを考えると、今回の OSS の実証実験は、

- ・ 京田辺市がめざすようなマルチベンダーな環境
- ・ 必要なところに必要な仕組みを導入する運用ポリシー

があれば、より幅の広い活用が可能になることを一部実証できたと考える。

また、今後学校現場において OSS 環境が広く普及していくためには、OSS 環境と非 OSS 環境の両方で活用可能なアプリケーションが多く存在することが必要になると考えられる。そうすることで、既存環境から OSS 環境への移行も抵抗無く行えるものと推測される。

校務についても、情報漏洩が社会問題となっている今日、教員が自宅へデータを持ち帰って事務処理等を行うことは危険が伴う。京田辺市の今後の取り組みとして、今回の USB フラッシュメモリからの OSS の起動を発展させ、自宅より USB フラッシュメモリをキーに学校の環境に接続することでセキュリティを保つ仕組みを構築できればと考える。

OSS は、これまで多くの人々の善意によって開発が進められてきた。今後、OSS が学校現場で普及するために、これまで以上に多くの人々の善意が寄せられ、子ども達のためにより良い環境作りが行われることを期待すると共に、我々も継続して取り組んでいきたいと考えている。